

〔箋注倭名類聚抄一水土〕曲直瀬本無和名二字、神武紀同訓、按心訓字良對外面之名、裏訓字良、對表

之名、今俗有宇良街、謂非通衢、宇良屋、謂在人家背裏、浦亦曲渚、非直向在大洋者、故名字良。○中山

田本、昌平本隱風作風隱、大雅常武率彼淮浦毛傳、浦厓也、說文、水瀨也、王念孫曰、浦者旁之轉聲、

猶言水旁耳。

〔東雅地輿〕浦ウラ 義不詳、倭名抄には四聲字苑を引て、浦大川旁曲渚、船隱風所也と註せり、古語表裏なり、又ガモテウラともいひし、これに同じ、又萬葉集抄に、カラとは下なり、カラモナシなど云ふが如き是なりといふ、カラミといひ、カラヤムといひ、カラチモヒといふの類、皆これ心の内に思ふ所をいへば、カラとは下なりといひ、ふも、また裏といふ義に異ならず、又占卜をカラといひ、ウラナヒといふが如きは、カラアハスなど、火にて焼て、表の方の坼し状を見る事なれば、これも又裏といふ義に異ならず、また上をもカラといひ、また末をもカラシといふ、草にカラカミとい云ひ、木にカラガレといふが如き是なり、又古には桑樹をカラクハノキと云ひしと見えたり、また麗はしと云ふ事が、カラクハシといひ、また和らげる事を、カラ、といふ、春の日の和らげるを、カラ、など云ふが如き是也、舊說にすべて重ね言ふ詞には、上のことばのすゑを重ねいふ、たとへばハラハラといふべきを、ハララといひ、カラといふべきを、カラ、といふが如き是なりといひけり、さらばカラ、と云ひしも、カラとキラとキリいふ如くななるなり、是等のことばの中、浦をいひて、カラといひしは、倭名抄に、船隱風所なりと見えし説に據らば、風浪の平かに和らげる所をさしいひしとも云ひつべきなり、

〔倭訓栞字前編四〕うら、裏をいふは衣の内ら也、家のうらも裏の義也、浦をいふも海面に對せし辭なるべし、歌に多く恨をそへたり、萬葉集に灣をもよめり、○下

略

〔藻鹽草五〕浦

浦浪 浦路 浦わ 浦ま 浦見_{へたる也} 浦かなし 浦さびし 浦つたひ うらく

浦のとまや わらはべの浦_{是名所歟} 老つしま志まもり神やらいさ 四方浦 浦松 浦なれ
たる浦也

〔香取神宮古文書纂四〕下總國香取大禰宜長房申、常陸國浦々海夫事、注文一通遣之、早任先例可致沙汰之由、所被仰下也、各不可存異儀之由候、仍執達如件、